

城下町平戸市で「通り名」による観光案内開始

平戸市は、対外貿易で栄えた地です。1550年のポルトガル船入港から、貿易の窓口が長崎の出島に移されるまでの約90年間、国内外の商人たちで賑わい、空前の繁栄を遂げました。

対外貿易で栄えた平戸は、経済的にも豊かで、文化的にも華やかになり、徳川幕府から信頼を得て亀岡に新城を築造しました。城下町は22の区域に分けられ、“平戸城下町22町”と呼ばれていました。鍛冶屋の職人たちが住んだ町や魚屋が軒を並べていた町など、22町それぞれの特色が町名に表れています。

以上のように、平戸には貿易の歴史、城下町の歴史、またそれらに関わった人物の歴史などいたるところに歴史があります。ただ、それらが日常の風景の中に埋もれてしまい、気付かないまま通り過ぎてしまうのが現状です。そこで、歴史を掘り起こし再び光を当てるために、由緒ある通りに名前を付け、「通り名」の道標を設けました。「通り名」の設置により、地域の人たちは、「通りを歩くだけで歴史を感じられるようになった。」や「観光客への案内が容易になった。」と大変喜んでいました。



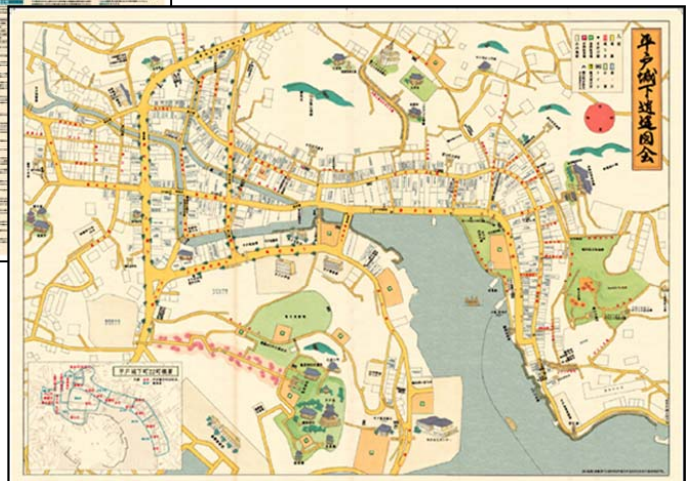
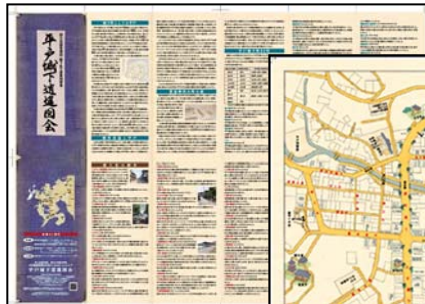
「通り名」への取り組み



▲ワークショップの様子

地域住民でワークショップを開催し、「通り名」や道標のデザインについて検討しました。

[クリックで PDF ファイルがダウンロードできます。→](#)



▲通り名マップ

「通り名」とその由来や歴史、地域の情報を盛り込んだ古図風マップを作成しました。



▲今回の「通り名」プロジェクトで、54の通りに名前が付き、118枚の道標が設置されました。